



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

National Center for Global Health and Medicine

国府台

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院長 青柳 信嘉

2019. 6月

第40号



[展望施設から眺める江戸川]

江戸川区と市川市を隔てる江戸川。釣りや多くのマリンスポーツを楽しむことでも有名です。

目次

◇前院長退職のご挨拶/新院長のご挨拶	2
◇新看護部長のご挨拶	3
◇新任医師のご紹介	3
◇職場紹介（外来Ⅱ）	5
◇診療科のご案内	6
◇「子どものこころ総合診療センター」が開設されました	7
◇国府台医療連携フォーラム2019のご案内	8
◇児童精神科の行事	9
◇つくしんぼ保育所の行事	9
◇広報誌『国府台』掲載俳句作品紹介	10
◇栄養一口メモ	11
◇編集だより	11
◇外来担当医表	12

前院長退職のご挨拶

前院長 杉山 温人

4月1日付けで国府台病院からセンター病院に異動になりました。国府台病院に在籍していた期間はわずか1年ではありましたが、私にとっては何物にも代えがたい濃密な1年間でした。

上村前病院長のモットーである、「明るく働きやすい病院」を引き継ぎつつも、大きく膨らんだ病院の赤字対策が私に与えられた喫緊の課題でした。病棟集約（これには、老朽化した精神科病棟に入院する患者さんおよび勤務する職員の環境整備の側面もあります）と、就任挨拶の際にも述べた外科系部門の充実が二本柱でした。お陰様で2019年2月末の病棟集約はトラブルなく完了できましたし、外科系部門に関しても整形外科医師の増員と、脳血管内治療を専門とする脳外科チームを招くことができました。特に、整形外科と脳神経外科の充実は地域医療に貢献する国府台病院にとっては必須の診療科と考えていましたので、実現できて本当に良かったと思っています。肝心の赤字に関しては、DPCの導入および職員の皆様のご尽力のお陰で、前年度に比べて約半分に削減する事ができましたし、その先には単年度の黒字化も見えてきています。

国府台病院はナショナルセンター所属の病院ではありますが、同時に地域になくってはならない、そして地域の人に必要とされる病院でもあらねばなりません。そのための土台作りが少しはできたかなと考えています。今後は青柳院長を中心に、「明るく働きやすい、そして稼げる病院」に変貌を遂げていただきたいと切に念じています。

今後は、センター病院長として国府台病院とのシナジーを最大限に生かせるように全力を尽くす所存です。1年間ではありましたが、本当にありがとうございました。

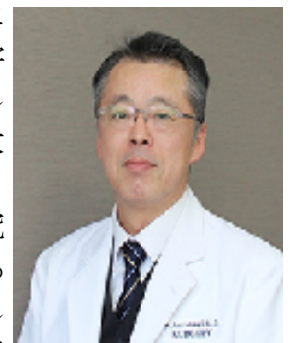


新院長のご挨拶

院長 青柳 信嘉

本年4月より国立国際医療研究センター（NCGM）国府台病院長を拝命いたしました青柳信嘉です。どうぞよろしくお願ひいたします。私は東京大学附属病院肝胆膵移植外科から国府台病院外科へ1998年6月に赴任いたしましたので、かれこれ21年が過ぎようとしています。この間、国府台病院は大きく変わりました。平成20年4月に国立国際医療センターに組織編入され、平成22年からは独立行政法人化されました。そして平成27年4月に国立研究開発法人NCGM国府台病院となり今日に至っております。NCGMは本邦に6つある国立高度医療研究センターの1つとして研究開発成果の最大化を使命として課せられており、私ども国府台病院は通常の診療と同時にこの使命遂行も求められています。当院の敷地内には肝炎・免疫研究センターが併設されており、NCGMのミッションとしてウイルス性肝炎の研究を行っております。同研究センターはウイルス性肝炎の研究で世界に冠たる研究実績を残してきており、その研究成果を臨床の場で最先端の肝炎診療として皆様に還元させていただいております。

国府台病院はこれまで、地域に根ざした急性期の総合病院として質の高い医療を提供するよう努めてまいりました。特に消化器肝臓疾患診療、総合内科診療、精神科診療で高い実績を積み重ねております。また、4月からは整形外科、脳神経外科、救急科の医師を新たに6名招聘し診療体制を強化したところであります。令和元年となる今年度を迎え、東葛南部医療圏の地域医療支援病院として地域医療連携のさらなる拡充と患者さんを第一に考えた良質で安全な診療に職員一同これまで以上に努めてまいりますので、今後とも引き続き皆様方のご支援ならびにご理解のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



新看護部長のご挨拶

看護部長 中村 直子

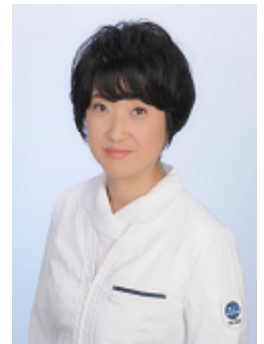
2019年4月1日に看護部長として着任いたしました、中村直子と申します。

2011年から3年間、東2病棟で勤務し、5年ぶりに国府台に参りました。久しぶりに会う職員はもとより、はじめましての方々、満開の桜もあたたかく迎え入れてくれました。

国府台病院の職員は、以前と変わらず、新人からベテランまでバランスよく、「こころとからだを見る」ために、忙しい中でも他職種とチームワークよく、勉強熱心で、明るく、誇り高く働いています。

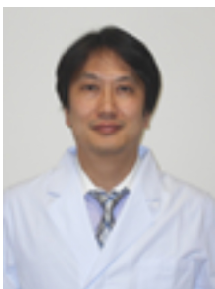
看護部は「かけがえのない生命と人間性を尊重し、あたたかい看護をめざします」を理念としています。看護師の接遇やケアに至らぬところがあれば、ご意見をいただき、業務や教育の改善に役立てたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

私の趣味はランニングです。今年の大河ドラマの主人公、日本人初の五輪ランナーとなった金栗四三の名言、「体力」「気力」「努力」を胸に、伝統ある国府台病院が、四方よし（患者・家族、職員、地域の方々、将来ご縁の有るの方々にとってよりよい病院）であるように尽力したいと思います。



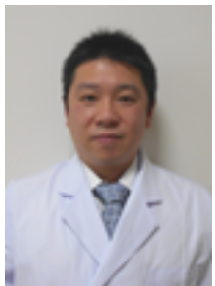
新任医師のご紹介

本年4月より着任した医師をご紹介します。
どうぞよろしくお願ひいたします。



脳神経外科診療科長 梶原 一輝（かじわら いっき）

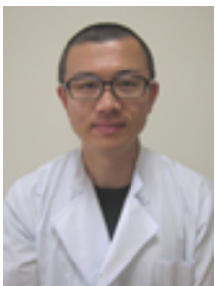
本年度より脳神経外科に着任しました梶原一輝です。今までは東京慈恵会医科大学に勤務していました。専門は「脳血管内治療」で、稀な疾患や高難度の手術も含めて極めて多くの手術経験を積みました。この経験を活かして多くの患者様にご満足いただけるように努力していきますので、よろしくお願ひ申し上げます。



救急科診療科長 佐藤 琢紀（さとう たくのり）

本年4月より救急診療科長に着任いたしました佐藤琢紀と申します。国立国際医療研究センター病院救急科より赴任してまいりました。

病院内外の連携をはじめ、地域の皆様のセーフティネットとしても頼りにされる科として多くの方々の支えとなるよう日々精進してまいります。



整形外科診療科長 藤本 和輝（ふじもと かずき）

本年4月より整形外科に赴任致しました。日本医科大学卒業後、千葉大学整形外科に入局し関連病院で研鑽を積み、この度縁ありまして国府台病院に赴任いたしました。整形外科一般、脊椎疾患、骨粗鬆症、転移性脊椎腫瘍を専門にしております。どうぞよろしくおねがひします。



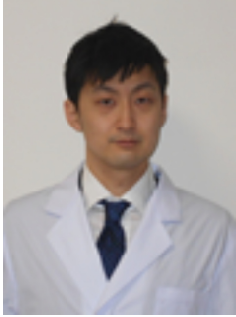
第一消化器内科医師 関根 一智（せきね かつのり）

第一消化器内科医師として4月より勤務させていただいております関根一智と申します。専門は胆膵領域で特に内視鏡検査・治療を得意としております。至らない点も多くあり、ご迷惑をお掛けする事もあると思いますが何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新任医師のご紹介



よろしくお願いいたします。



第一脳神経外科医師 一之瀬 大輔（いちのせ だいすけ）

本年4月から国府台病院に赴任いたしました。脳神経外科の一之瀬大輔です。愛知県の藤田保健衛生大学を卒業後、医師としての修練を東京慈恵会医科大学附属病院で行い、現在に至ります。いままでつちかった技術と知識を市川市、近隣の住民の方々の脳卒中予防、治療に活かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



整形外科医師 中川 量介（なかがわ りょうすけ）

2019年4月より赴任いたしました。主に膝・足の疾患やスポーツ整形外科を専門にしております。外傷はもちろん、なかなか改善しない膝や足の痛みや変形などでお困りの方は是非ご相談ください。



心療内科医師 藤本 晃嗣（ふじもと こうじ）

本年4月より心療内科に赴任しました。九州大学病院で初期研修後、九州大学心療内科に入局し、摂食障害や慢性疼痛、呼吸器心身症などの研鑽をつみました。

心療内科領域での診療で皆様に貢献できるよう努力する所存です。よろしくお願いいたします。



外科フェロー 小野 英哉斗（おの はやと）

2019年4月より赴任いたしました。外科の小野英哉斗と申します。地域に根ざした医療を心がけ、患者さま一人ひとりと向き合っていきますのでよろしくお願いいたします。



耳鼻いんこう科フェロー 丸山 大輔（まるやま だいすけ）

2019年4月から国府台病院で勤務させて頂いている耳鼻いんこう科の丸山大輔です。みみ・はな・のどについてなんでもご相談ください。わかりやすい説明を心がけて診療いたします。よろしくお願いいたします。



歯科レジデント 安田 早芳（やすだ さよし）

医療センター歯科口腔外科から参りました。口腔外科を専門としています。口腔内のことで何か少しでも不安なことがあればご相談ください。

よろしくお願いいたします。



整形外科レジデント 秋山 太郎（あきやま たろう）

2019年4月より当院で後期研修をしております、秋山太郎と申します。まだまだ、至らぬ点はたくさんございますが、精一杯診療にあたりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



精神科レジデント 松村 美希（まつむら みき）

本年度より精神科レジデントとして勤務しております、松村美希と申します。当院で初期研修を修了し、引き続きの勤務となります。

至らない点も多々あるかと思いますが、地域の皆様のお役に立てるよう丁寧な診療を心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



精神科レジデント 杉 晴奈（すぎ はるな）

本年度より精神科レジデントとなりました、杉晴奈と申します。愛媛大学で初期研修を終え、こちらに勤務させて頂くこととなりました。縁もゆかりもありませんが、新たなお縁に感謝しながら日々丁寧に過ごして行きたいと思っております。

至らない点も多く、ご迷惑をおかけすると思っておりますが、御指導の程よろしくお願い致します。

職 場 紹 介 ～今回は、外来Ⅱ（精神科 訪問看護・デイケア）の紹介～

外来Ⅱ 看護師長 堀部道子

看護部 外来Ⅱという職場をご紹介します。

外来Ⅱは、精神科部門を担当している職場です。主に精神科訪問看護と精神科デイケアを担当しています。訪問看護事務室は、ソーシャルワーク室の隣にあります。デイケア事務室は、作業療法室と体育館のある社会復帰庁舎の3階にあります。

精神科訪問看護部門は、当院精神科外来に通院中の方が、地域社会で安定した生活が送れるように精神面、身体面双方からの援助をすることを前提に活動しています。主治医の指示のもと、病状や生活状態の確認のほか、生活をする上での相談にのり、社会福祉士や地域支援者と連携することで、可能な限り地域での生活を送ることが出来るように、利用者の方の自宅に伺い援助しています。入退院を繰り返す方についても、入院中に病室を訪問し状態を確認しつつ、地域社会生活に戻るための援助を行っています。

精神科デイケア部門は、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、心理療法士がタッグを組んで、精神障害を抱えた方が社会参加に至るためのリハビリプログラムを企画して活動しています。楽しいプログラムや、目からウロコの学習プログラム、リラックスできるプログラム、自分の新たな能力を発見するようなプログラムなど様々な企画があります。集団活動をすることで社会参加への道筋をつけるだけでなく、一人一人の希望に応じた社会生活の実現を目指し、個別担当スタッフが支援を行っています。利用期限を原則2年と定めています。まずは、主治医に相談し見学や体験をしてみてください。



診療科のご案内 ～脳神経外科・整形外科～

脳神経外科診療科長 梶原 一輝

当院脳神経外科は、2019年4月よりメンバーが全て入れ替わりました。梶原一輝、一之瀬大輔の2名の脳神経外科専門医で診療を行っています。

2名とも東京慈恵会医科大学脳神経外科にて数多くの経験を積み、中でも脳神経外科のメインとなる脳血管障害を得意分野としています。特に科長の梶原は脳神経外科専門医に加えて、脳血管内治療専門医・脳卒中専門医を有しております。

現代の脳血管障害の治療において、脳血管内治療（カテーテル治療）は不可欠なものとなってきており、メディアでも多く取り上げられてきています。しかし今まで国府台病院ではスタッフ不足などにより脳血管内治療が行われていませんでした。この度、脳血管内治療専門医が着任したことで開頭手術だけではなく、脳血管内治療での対応も可能となりました。

また脳神経外科疾患（脳血管障害や外傷）は超急性期治療が非常に大事であり、治療のタイミングを逃すと重い後遺症を残したり、生死に関わることもあります。この度2名体制になったことで、救急患者にも迅速に対応可能となりました。今まで以上に多くの患者さまに対応できると考えております。

上記のように脳神経外科は救急疾患のイメージが強いですが、頭痛やしびれ、頭部打撲などの日常よくある症状や脳腫瘍、てんかんやけいれん、水頭症、脳卒中再発予防など救急疾患以外も診療しています。

「脳のことなら国府台病院 脳神経外科に行けばなんとかしてくれる」と地域の方々に思っただけのよう努力していきます。

些細な事でも構いませんので、お気軽にご相談ください。



整形外科診療科長 藤本 和輝

当科では、平成31年4月より藤本、中川、秋山の3名が赴任し常勤医4名および聖路加国際大学からの非常勤医で診療を行っています。今までご迷惑をおかけしておりましたが4月より外来体制を一新し月曜日から金曜日まで毎日初診を受け付けております。また救急患者さんも救急科、脳神経外科と連携しながら対応しております。顔面、頭部以外の切創、挫創などのケガ、打撲、捻挫、骨折や脱臼などの外傷は当科で担当致します。

藤本は脊椎外科を専門にしており、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、頸椎椎間板ヘルニアを始めとした脊椎疾患の他、転移性脊椎腫瘍も専門にしております。症状に応じて投薬治療やブロック治療を行い、必要時には手術加療を行います。また骨粗鬆症も専門にしており、選択肢の多い骨粗鬆症薬の中から最適の治療薬を選択し、治療を行います。

中川医師は関節外科を専門としており、変形性膝関節症、変形性股関節症などの変形性関節症に対する治療を行っています。特に変形性膝関節症に対しては従来的人工関節置換術はもちろん、最近選択されることの多くなった骨切り術も症例に応じて行っております。また膝前十字靭帯損傷や半月板損傷、足関節靭帯損傷などのスポーツ整形外科領域の治療、対応可能な施設の少ない変形性足関節症や外反母趾、扁平足などの足部足関節疾患に対する外科的治療も行っております。

四肢、腰背部の痛み、しびれは日常生活の質に大きく関わる部分です。何かお困りのことがございました是非当科外来を受診してください。外来でお待ちしております。



「子どものこころ総合診療センター」 が開設されました

センター長 宇佐美 政英

毎日のようにマスメディアを通じて児童虐待や子どもの自殺に関するニュースが流れてきます。世界の児童・青年のうち約20%が精神障害・問題を抱えています。彼らに対して、メンタルヘルスを促進し、精神障害を予防する介入は有効であり費用対効果が高いとされています。わが国では児童虐待が増加の一途をたどっており、子どもの自殺問題や発達障害の急増、災害後のケアの必要性なども繰り返し指摘されています。一方で、児童精神科医が少ないことに加えて児童思春期専門病棟は全国に30施設ほどしかありません。社会的な重要性に反して、わが国の児童精神科医療は充分とはいえず、早急な整備が課題といえます。



そのような中で4月1日に「子どものこころ総合診療センター」が設置されました。建物の整備の目処は立っていませんが、わが国の“子どものこころ”に関する医療・臨床研究・国際協力・人材育成の分野を牽引していく予定です。

国府台病院に設置された背景には、我が国で最も古い児童精神科の一つであるということが挙げられます。1948年に当時の村松常雄院長が、終戦後の病院を復興発展させるための生き残り戦略の一つとして、里見分院（現在の里見公園）の病棟を精神科の一部門である児童部として立ち上げました。当時としては珍しくソーシャルワーカーを含めた多職種臨床チームで活動してきました。また、地元児童相談所や特殊学級などと交流をもつなど、地域活動も積極的に行なってきました。1965年には児童精神科入院児のための国内初となる院内学級が千葉県市川市により設置され、現在でも使用している児童精神科専門病棟と外来棟が、それぞれ1972年と1975年に建てられました。多くの子どもたちの思い出が詰まった病棟と外来棟を大切に使いながら、多岐に渡った活動を多職種にて実践してきております。

地域の機関と繋がった多職種による臨床チームを重要視する理由として、子どもの資質のみを問題にするのではなく、幅広い視野で子どもを理解することが大切と考えていることがあります。生物学的・心理社会的な視点を様々な職種によって持ち寄り、可能性に溢れたひとりの人の成長を見守っていくという児童精神科医療の根幹を示し続けてきたのだと思います。

児童精神科は昭和・平成・令和と時代を重ね、「子どものこころ総合診療センター」として進化し、偉大な先人たちの残した児童精神科医療を、これからも国府台の地で続けていきたいと考えております。



令和元年7月10日（水）山崎製パン総合クリエイションセンターにおいて国府台医療連携フォーラムを開催致します。この医療連携フォーラムは平成29年度より行われ、今回で6回目の開催となります。市川市医師会、市川市歯科医師会、および近隣医療機関先生方を中心に、毎回多くの方にご参加頂き行われております。

今回のフォーラムは、当院整形外科診療科長の藤本医師より「腰痛患者における骨粗鬆症、筋量の関与」について、また当院脳神経外科の一之瀬医師より「急性期脳梗塞治療の変遷と現状」についての講演を行います。

この地域医療連携フォーラムは年2回計画しており、次回は来年2月12日に開催することが決定しています。地域の病診連携をさらに進め、ますます地域に貢献できる医療機関を目指してまいります。

国府台医療連携フォーラム 2019 SUMMER

令和元年

7月10日 **水** 19:30-21:30

場 所 : 山崎製パン総合クリエイションセンター

【講演①】19:30～



演題：「腰痛患者における骨粗鬆症、筋量の関与」

整形外科診療科長：藤本 和輝

【講演②】20:00～



演題：「急性期脳梗塞治療の変遷と現状」

脳神経外科医師：一之瀬 大輔

【情報交換会】20:30～

講演会終了後に情報交換会の席をご用意しています。是非ご参加ください。駐車スペースに限りがございます。ご不便をおかけしますが、ご出席の際には、公共交通機関をご利用ください。



国立国際医療研究センター国府台病院

【お問い合わせ連絡先】TEL: 047-375-4744 (地域医療連携室)

【ホームページ】URL: <http://www.ncgmkohnodai.go.jp>

児童精神科の行事

東3病棟看護師長 堀越 綾

4月23日（火）に毎年恒例の江戸川遠足に児童精神科病棟に入院している児童と院内学級（国府台小学校・市川第一中学校）に通う生徒、引率の医師・看護師等と院内学級の先生の総勢55名で出かけてきました。当日は良い天気にも恵まれ、里見公園脇から江戸川土手沿いを歩き、新葛飾橋を渡って、柴又公園に向かいました。公園で昼食の弁当を食べ、サッカー・バレーボール・鬼ごっこ・シャボン



玉をして思う存分遊びました。帰りには、渡し舟で江戸川を渡し、風情ある景観を楽しみました。

江戸川の土手からは、ねぎ畑や田んぼなどの清閑な景色を眺め、鳥のさえずりや草木を揺らす心地よい風を感じられる時間とな

りました。往復約10kmの道のりは、児童にとっては長い距離ですが、全員歩ききることができました。入院して間もない児童も多く、体力や集団での活動に不安を抱えての出発でしたが、この遠足で仲間意識が芽生えてきたように思います。6月末に予定している鋸山遠足に向けて、手ごたえを感じられる一日となりました。



つくしんぼ保育所の行事

管理専門職 森田 英樹

つくしんぼ保育所は、平成30年12月より事業所内保育事業として認可を受け、定員50名（うち地域枠0・1・2歳児各4名）で新たにスタートしました。

ピカピカの新園舎で、子どもたちも保育士も保護者（？）も快適な毎日を送っています。

今年は、10日間という長〜いGW明けの5月7日に、ちょっぴり遅めの子どもの日のイベントを行いました。

0・1歳児は保育士が背負ったカゴに向かって一生懸命に

玉入れっ!! でも、なかなか入らず最終的には保育士がしゃがみ込んで・・・

ようやく玉が入りました。

その後は、毎年恒例の金太郎が登場。金太郎の正体がバレバレではありましたが?? それでも、子どもたちは金太郎とカー一杯に

相撲を取り、優勝者はメダルをもらってニコニコ? 楽しい子どもの日のイベントとなりました。



広報誌『国府台』掲載俳句 作品紹介

国府台病院では、地域の皆様との交流の場として俳句募集をおこなっています。ご応募いただいた俳句の中から市川市俳句協会のご協力のもと、素晴らしい俳句をご紹介します。

選者 市川市俳句協会

町山公孝・沖同人
三木千代・嶋同人

特選

かげ捨つるやうに飛びたつ秋の蝶

近藤れい

病気も快癒してさわやかに退院ですね

入選

生見つめ八月の日を終らんか

清水章男

これからも頑張って生きてます

せみしぐれ今日は親指痛くなり

ズエチヤン

生きていればこういうこともあります

夕焼けや我を励ます雲の父

西田昌弘

あの夕焼け雲はお父さんだったのでね

退院の人とふれ合ひ夏の空

淳平

よかったですねえ、おめでとうございます

光る汗その一滴がストーリー

えりんご

お医者さんも懸命に頑張ってくれています

月あかり母と歩いた田舎道

坂本喜久江

懐かしいですねお母さん

新緑のさざ波はわが子守唄

小春おばさん

気持ちよくやすみましよう

まぶしいな待合室に春の陽が

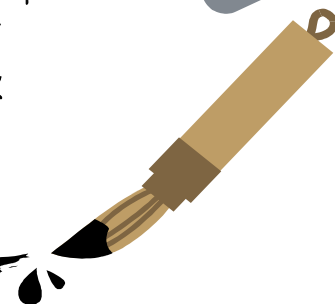
富岡太郎

早く順番がこないかなあ

うぐいすと院内散歩国府台

近藤勇次郎

国府台はうぐいすがよく鳴いていますねえ



🌿 ★☆今回のテーマ オクラについて☆☆ 🌿

ゴールデンウィークも終わり、徐々に汗ばむ陽気が多くなってきました。これからの時期に旬を迎える野菜の一つにオクラがあります。アフリカ大陸原産の野菜で、エジプトでは2000年以上も前から栽培されていたといわれています。

オクラといえば、独特な粘りが特徴です。粘りの成分は、水溶性食物繊維のペクチンと複合たんぱく質のムチンです。ペクチンには血中コレステロールを下げる働きや整腸作用。ムチンには胃粘膜の保護や消化を助ける働きがあるといわれています。

オクラにも含まれている食物繊維ですが、日本人の食事摂取基準（2015年版）では、食物繊維の目標量は、18～69歳では1日あたり男性20g

以上、女性18g以上とされていますが、国民健康・栄養調査によると目標量を下回っています。食物繊維は、野菜類・海藻類・キノコ・穀類・果物などに多く含まれています。これからの時期は、夏野菜が旬を迎えますので、食物繊維不足を補うためにも野菜摂取を心がけていきたいですね。



編集だより

“市民憩いの江戸川”

編集部

流山の西側を流れる江戸川は、徳川家康が江戸に入府する前には渡良瀬川の下流の太井川と呼ばれる川でした。入府後、江戸に流れる当時の利根川を太井川に流れるようにつけかえる治水工事が行われ、太井川は利根川と呼ばれるようになり、さらにその後の治水工事で利根川が銚子の方を流れるようになり、利根川の支流となって江戸川とよばれるようになりました。そして今上落を介しての水田へ水の供給、そして水運に利用されました。



今では市内と江戸川区を隔てる江戸川周辺は野球やサッカーなどのグラウンドが並ぶほか、多くのマリンスポーツも楽しめる遊びの宝庫。釣り船も多く見られる河口部はハゼ釣りの名所としても有名です。付近にはカニやアサリなども生息し、磯遊びも楽しめます。江戸川河川敷緑地ではバーベキューも出来るそう。暖くなるこれからのシーズン訪れて見てはいかがでしょうか。